

平成29年度「市長と語り合う会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
1月22日（月）	市民学習センター	19:00～20:10	9	1	10

○市側出席者

市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書広報課長

2 会の概要

○開会（秘書広報課長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○あいさつと市政運営の説明（山本市長）

平成29年度施政方針

① 企業との連携

施政方針の大きな柱の一つとして、地元企業との連携を強化することを掲げている。

今年度は、市の施策に協力していただける企業について、子育て応援宣言企業登録制度、U I ターン者サポート宣言企業登録制度、サイクリスト誘客協力宣言企業登録制度という3件の登録制度を設け、官民連携して事業を進めている。

また、日本の先端的技術を有する企業と地元企業をつないでいくことも産業振興や防災、健康づくりなど様々な面から有効であると思っている。

企業との連携については、今後も本市の重要方針として取組んでいきたい。

② 空港利用拡大

萩・石見空港は、高速道路や鉄道の整備が遅れている本市において重要な高速交通網であり、この空港がさらに存在価値を発揮するためには、便数の充実が必要であると思っている。

羽田発着枠政策コンテストにより2往復運航が実施される東京線については、平成30年度以降の継続の是非が本年度の大きな問題であったが、おかげをもって、昨年10月、さらに2年間の延長が決定したところである。

この空港利用については、飛行機を利用される方にメリットがあるのは勿論のこと、それ以外にも産業や観光振興、医療体制の充実など様々な面で恩恵があるものと考えている。今後はさらに利用拡大を図り、基礎需要の拡大に努めていきたい。

③ 東京五輪キャンプ誘致について

2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける自転車ロードレース競技の事前キャンプ誘致を進めている。これは、ここ数年、市内でINAKAライドやチャレンジャーズステージなどの競技が定期的開催され、自転車競技に対する機運が高まっていること。また、健康増進や環境保護の面から政府としても自転車の振興を推進していること等による。

現在は、アイルランドとニュージーランドの2カ国に誘致対象国を絞っているが、このうち、アイルランドについては、2月下旬に同国の監督が本市を視察される予定となっている。

誘致が実現した際には、益田市の知名度向上やスポーツの振興、交流人口の拡大などに加え、オリンピック・パラリンピックの持つ崇高な精神に市民の皆さんが触れることのできる素晴らしい機会になると考えている。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 固定資産税について
- ② 少子化対策について
- ③ 全日本自転車競技選手権大会について
- ④ 空き家の活用について
- ⑤ 職員の意識改革について
- ⑥ 行財政改革について
- ⑦ ひとまるビジョンについて
- ⑧ 道の駅について
- ⑨ 市業務の見直しについて
- ⑩ クールチョイスについて
- ⑪ 新オレンジプラン（認知症施策推進総合戦略）について

○ 閉 会 （秘書広報課長）

平成29年度「市長と語り合う会」

〔会場 市民学習センター〕 開催日時：平成30年1月22日（月）19:00～20:10

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 固定資産税について 家をリフォームした場合の固定資産税が、リフォームの前後で変わらないという不具合が生じている。本来、築後30～40年経過した家とリフォームにより新築同様になった家が同じ評価になるのは公正・公平でない。税込確保の面からも見直すべきではないか。</p>	<p>①ご意見として担当課に伝える。</p>
<p>② 少子化対策について 少子化が加速する中、今後は若い人の意見を聞いて、若者が安心して子どもを産み育てることができるような環境づくりに取組んではどうか。</p>	<p>②これからも様々な機会を通じて若者の意見を聞き、政策に反映していきたい。</p>
<p>③ 全日本自転車競技選手権大会について 本年6月に益田市で全日本自転車競技選手権大会が行われると聞いた。開催にあたり、選手の救護と不足する宿泊場所への対応をどう考えているか。</p>	<p>③救護については、地元の医療機関や益田市医師会等と連携して体制を整えていきたい。 宿泊については、市内の宿泊施設の確保に努めるとともに、周辺市町の施設を活用できるよう体制整備を図りたい。</p>
<p>④ 空き家の活用について 空き家を老人ホームとして活用する旨の記事が新聞に載っていた。これに関連し、先日も大雪により美都町で民家が孤立する状況が生じたが、今後も同様な事態は予測されることから、こうした集落に市内の空き家を提供し、暫く滞在してもらうような仕組みをつくるべきと思うがどうか。</p>	<p>④空き家を改修して老人ホーム等に転用する場合の国の補助制度について報道があった。今後検討されるようなので、ぜひ活用し高齢者の福祉対策につなげていきたい。 指摘のあった災害対策にかかる空き家の活用についても、予測される事態に備えて対応を考えていきたい。</p>
<p>⑤ 職員の意識改革について 労務管理や人事評価の徹底など職員の意識改革にはどの様に取り組んでいるか。</p>	<p>⑤職員の意識改革については、市総合振興計画や各年度の施政方針など市の重要方針を徹底するほか、各部課においても年度の目標を立てて仕事をしている。また、労務管理の面では、個々の上司の指揮命令のもと、緊張感をもって仕事に当たるよう徹底している。 人事評価については、現在管理職に対する試行を行っているが、ゆくゆくは個々の職員を対象に行うべく、評価者の研修に力を入れている。</p>
<p>⑥ 行財政改革について (1)市の決算報告が市広報に掲載されているが、解りにくい。もう少し工夫すべきではないか。 (2)今後の空港対策についてどう考えるか。</p>	<p>⑥行財政改革について (1)自治体の財政は複雑な作りをしており、解りにくいのも事実である。詳細な説明についてのお申し出があれば個々に対応させていただく。 財政状況が厳しい折ではあるが、今後財政が長期的に持続できるよう、予算の策定・執行を厳格に行っていきたい。 (2)空港の利用が基礎的な自然の需要に基づいて維持されるような仕掛けづくりが今後の最も大きな課題であると思っている。</p>

<p>(3) 企業誘致、地場産業の育成の現状はどうか。</p> <p>(4) 歴史を活かしたまちづくりに今後どのように取り組むか。</p> <p>(5) 計画中の道の駅が将来赤字とならないためにどのように取り組むつもりか。</p> <p>(6) 地域自治組織のあり方や進め方をどのように考えているか。また、地区振興センター、公民館のあり方についてはどうか。</p> <p>⑦ ひとまるビジョンについて ひとまるビジョンの加入率が悪い。設備整備等に高額なお金が使われているので、全ての家庭がひとまるビジョンを見るような環境をつくってほしい。(回答不要との発言あり)</p> <p>⑧ 道の駅について 中山間地の高齢者は買い物や病院等に行きたくても交通手段がない。これを何とかする手段としてぜひ道の駅を造ってほしい。(回答不要との発言あり)</p> <p>⑨ 市業務の見直しについて 市(公務員)がやらなくても民間で対応できる業務は幾らでもあると思う。業務の見直しをしてはどうか。</p>	<p>(3) まずは、今ある産業の育成。次に、地元から新しい産業を興すこと。最後に、外部の企業を誘致するという優先順位を付けて産業の振興を行っている。</p> <p>(4) 平成30年度に歴史文化基本構想を策定し、この中で、本市の歴史をどのように研究し発信していくか。それを観光振興や交流人口の拡大にどのようにつなげていくか。という形でプランを立てることとしている。</p> <p>(5) 最も重要なことは、この道の駅が将来的に持続可能なものとするところにある。そのために、現在は基本構想を進めるうえで必要な関係機関との協議・調整を行っている。新しい道の駅が益田市のシンボルとして定着するよう今後慎重に計画を進めていきたい。</p> <p>(6) 地域自治組織には、20地区20通りのあり方があると考えている。吉田地区においては、様々な民間団体が主体的に活動され、地域の振興に寄与されており、こうした団体の活力をお借りして、組織の設立に取り組んでいただきたいと考えている。また、防災など住民にとって関心の高い課題を中心に組織の設立に向けた機運づくりを進めていただきたいと思っている。 地区振興センターについては一定の段階で廃止する方針であるが、今後公民館の活動を充実させることにより、地域自治組織との連携や地域づくりの担い手育成などに引き続き力を入れて取り組みたい。</p> <p>⑦ (回答なし)</p> <p>⑧ (回答なし)</p> <p>⑨ 民間でできるものは民間に委ねるとというのが基本的なスタンスである。すでに、ごみの収集など見直しを行ったものもあり、今後も進めていきたい。</p>
--	---

⑩ クールチョイスについて

市はノーマイカーデーを呼びかけているが、職員にその自覚がないように思う。今後自転車によるまちづくりを進める上で、市職員が自転車を率先して利用しPRするよう徹底すべきと思うがどう考えるか。

⑪ 新オレンジプラン(認知症施策推進総合戦略)について

本制度は、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けたものであるが、自分の経験から、市は介護者への気遣いが不足しているのではないかとと思う。どの様に認識されているか。

⑩ノーマイカーデーという掛け声が浸透してないのも事実である。今後あらためて呼びかけを行っていきたい。

⑪今後地域包括ケアシステムの構築を進めるうえで、困りごとがある方が安心して相談でき、配慮することができるよう心がけていきたい。